

くまもとのタネと食を守る会 会報

熊本市北区植木町今藤 1140-1 Tel : 090-6426-3604 Fax : 096-273-1917 save.seedfoodkuma@gmail.com

2024 年

1 月

タネと
食の安全保障
特集号!!あの時のこどもの顔が
忘れられない

わらく農園 山崎幸治

有機無農薬農家になり13年が経ちました。
私の農との関わりは、2010年に始めた家庭菜園からでした。
そんな私が本格的に農家になる決意をしたのは、知り合いの保育園に野菜を提供したことからでした。

生産者だけでなく消費者にも広がる「タネとり」。
今回は、津奈木町で有機農業を営みながらタネとりを続ける「わらく農園」の山崎幸治さんにご寄稿いただきました。
津奈木町は町づくりや「人と人をつなぐ」事業として「つなぎFARM」プロジェクトを展開しています。山崎さんはそのメンバーの一人で、「町ぐるみでタネとりの野菜を広めること」を行政に提案されています。

私の作った人参をこども達が美味しそうにパクパクと食べている姿を見て、心の奥から泉のように「うわぁ」と感動が湧き起こりました。

小さか椅子にちょこんと座り、無邪気な顔を見せる子供たちとは対照的に、感動の波に押されるように私の背筋はピンと伸びた。

私の作った野菜で、この子達の体が作られていく。その根幹になるような野菜を作っていきたい。

今でも昨日の事のように覚えています。その出来事が本格的に農業を志すきっかけとなり、原風景として記憶に刻んでいます。

タネからタネへ命をつなぐ農と食、
そして人へ

現在は有機JASを取得し、環境共生型農業をテーマに自家採種、固定種、在来種の種を中心にして年間20種類ほどを生産しています。



自家採種は今年で8年目になり、ようやく種採り作業も慣れては来ましたが、毎年タネの力には驚かされることばかりです。その土地に、風土に馴染んでいく。しかし、時として訴えかけてくるように思うようにいかないことも出て来る。だからこそ、考えさせる時間を野菜は私に与えてくれるんじゃないかなと思います。わらく農園では、大切にしている言葉があります。

「タネからタネへ命をつなぐ農と食、そして人へ」

私は農業者であるとともに、次世代にタネや環境を循環できる良い形で残していきたいと考えています。その為に、技術を伝える野菜塾ワークショップや消費者に理解を広めていく活動としてイベントを企画運営しています。そうして、生産者と消費者をつなぎコミュニティを作りたい。

(P2へ続く)

食料安全保障を語り合う連続企画やります

「食糧安全保障」を語り合う会を、2024年度に連続で企画します。身近でリアルな講師の話の聞いて、少人数で心ゆくまで意見交換し、食糧危機に備えましょう。年4回、参加15人程度。参加費500円。Zoom参加あり。他、詳細は検討中です。

1回目

「ロシアの台所からみた食糧事情」

ばば ともこ
・・・話題提供：馬場朝子さん

●プロフィール

くまもとのタネと食を守る会 会員
1951年熊本生まれ。1970年よりモスクワ国立大学文学部に6年間留学。帰国後、NHKに入局、ディレクターとして40本以上の番組を制作。

【著書】『俳句が伝える戦時下のウクライナ』『俳句が伝える戦時下のロシア』『ロシアのなかのソ連：さびしい大国、人と暮らしと戦争と』『タルコフスキー 若き日、亡命、そして死』、『低線量汚染地域からの報告 チェルノブイリ26年後の健康被害』他。
【馬場さんが制作してきた主な番組】
「ソビエト市民の静かな革命 ラトビア人民戦線 独立への息吹き」(ETV8)、「私は臆病者—ブラハ侵攻に反対した赤の広場の8人」(ハイビジョンスペシャル)、「過ぎし時への悲歌—映画監督ソクーロフの世界」他多数

ボランティア
募集!!

くまたねの活動は
会費と市民のみなさま
からのご寄付によって
支えられています。
みなさまのご支援をお願いいたします。

▼ゆうちょ銀行
01780-0-172287
もしくは
一七九店(当座)
0172287

支えてくださる
会員登録や
メーリングリストへ
のご登録もいつでも
募集中です!

この連続企画の話は、くまたねの「note」
(HPからリンク)にアップしていきます。
そのために、講座内容を文字化し編集することを
やってみたい人を募集します。
世にいうライター体験となります。
やってみたいという人は、
事務局にご連絡ください。

その他

「酪農家から聞こう」
「外国から見たら日本の農業と食」なども検討中。
話題を提供して下さる人の推薦も歓迎します。

2回目

我が集落の現実 農業者の平均年齢が

はざまつかさ
70歳の実態とは?・・・話題提供：間 司さん

農業者の平均年齢が70歳近いという情報は誰もが知っています。「農業とはそういう物だ」と了解し、それが続くと考えるのは勘違いです。先日NHKスペシャルで、主食である米を生産することが出来なくなる程の、担い手の崩壊がおきつつあるということを集集していました。今、目の前の田畑は耕作されているので、誰もが実感を持てませんが、人の高齢化だけでなく、水路の老朽化、大型機械の寿命、などなど集落の農業実態をよく見てみると、衝撃を受けるはず。まもなく、「雪崩をうったように」という表現がぴったりの耕作放棄地の拡大が始まるでしょう。

●プロフィール

くまもとのタネと食を守る会 会員
1982年に熊本市植木町に新規就農として移り住み、露地栽培での有機無農薬での野菜作りと平飼いの産卵養鶏を「百草園」の名称で営んで41年。現在73歳。
「農業は80歳までは現役」と思っているが、「80まで足腰が元気の保障なんてないのに、馬鹿じゃないの」と言われつつ、2023年に「百草園」の研修卒業生達と合同会社万菜村を設立。農産物出荷と農地の維持につとめはじめた。

くまたね今後の予定

- 1月28日(日) 2024冬季種苗交換会(鹿児島開催)
- 2月24日(土) 第18回 GMO フリーゾーン運動全国交流集会 in くまもと
～25日(日) 講演者：鈴木宣弘氏、山田正彦氏【詳細はチラシ参照】
- 3月 2日(土) 水の調査報告会
「聞いてみよう～ 中地先生の熊本の水の話
おうちの飲み水もってきてはいよ～★ 硝酸態窒素の検査」

自然もその循環のサイクルが途切れた時に問題が起こるように、私たちの社会も繋がりの中でそれぞれの役割が存在し、尊重されることで調和が保たれます。忙しい日常に流されることで、私たちはどこかに大事な忘れ物をしたのかも知れませんね。

そして、ここ津奈木町は水俣市のとなり町でもあり、被害地域です。そういった歴史的な背景もあり、環境に配慮した農業を町ぐるみで進めて来ました。その活動を担うのが「つなぎFARM」という団体です。私はそのメンバーの一員でもあります。

農業から学んだことをタネと共にバトンのように人に繋いでいきたい。世代が違っても、育った環境が違っていても、タネは共通言語のような存在になれるんじゃないかなと私は思っています。

そこで、町ぐるみで種採り野菜を広めていけるように行政に提案しています。

これが形になっていけばこの町の名前の通りにタネの「つなぎ場所」になれるんじゃないかな。

採種場の場所はまだ決めていません。そして、シードバンクも作ってみたいです。

その想いを胸に秘め、この土地とタネの力を信じて、私は今日も畑に向かいます。

開催のお知らせ

くまたね顧問
元東海大学農学部教授

長野克也先生講演会

2月4日(日)10:00

つなぎ文化センター
大会議室

つなぎFARM

津奈木町役場農林水産課
山崎聖矢

『つなぎFARM』は水俣病を経験した地域だからこそ伝えていかなくてはいいことがあると考え、環境に配慮した農業を町が推進することで、水俣病の教訓を風化させず、町の豊かな自然環境を残していくプロジェクトです。このプロジェクトは町の子ども達や農家、行政が連携して10年前から取り組んでいます。



鈴木宣弘先生の講演会を開催しました



2023年9月9日(土)、熊本市現代美術館アトリウムにて、鈴木宣弘先生講演会「どうする私！鈴木宣弘さんと参加者でつくろう、備えのカタチ！」を開催しました。

熊本での講演会も何度もされている鈴木先生ですが、今回も満員御礼。約100名の参加者とともに、過去・現在・未来の食について話を聞き、それぞれに想いをめぐらせました。

2月24日にはまた、「GMOフリーゾーン運動全国交流集会inくまもと」でお話をされます。9月に参加できな

かった人、この時に聞いてください。

講演会を聞いた熊本市の中学生・美咲ちゃん(同時発行の給食特集号にマンガを描いてくれました！)から、感想をもらいました。

「講演を聴き、ニュースなどで報道されている日本の食料自給率より、実際は(率が)もっと低いことを知り驚きました。

できる限り国産のものを買うなど、すぐにできることがあると知ることができたので、一人ひとりが意識して生活していくことが大切だと思いました。」



情報量たっぷりのスライドと、ユーモアが随所に散りばめられた話術に惹き込まれてしまいました

食糧と安全保障

馬場朝子



ウクライナでの戦争は2年近くに及んでいる。ロシアのウクライナ侵略に対して西側諸国は様々な制裁をロシアに課してきた。ユニクロやマクドナルドなど西側企業の撤退、貿易の停止、航空便の停止など。殆ど孤立状態にあるロシアだが実際に国民はどう生活しているのだろうか。

世論調査によると西側諸国の制裁の被害はあったかという問いには、はい11%、いいえ87%だ。殆ど影響が出ていない。友人たちの話を聞いても生活に不自由はないという。特に食料に関しては問題ないとのことだ。

ロシアの食料自給率は130%程とされている。世界の食料輸出に占める割合はこの戦争以前は小麦は一位、他に大麦 ライ麦 とうもろこし ひまわり油なども主要輸出国だ。またウクライナも同様に穀物輸出国だ。

これは革命や、世界大戦、ソ連崩壊など様々な過酷な歴史の中で、食料生産を大切にしてきた国の政策によるものだ。

また、国家レベルだけでなく、一人一人の国民が食料生産に関心を持っている。多くのロシアの人たちはダーチャと呼ばれる別荘を郊外に持ち、休日はそので野菜などを栽培している。収穫期には自分で栽培したじゃがいもや、玉ねぎ、トマトなどを友人たちが大きな袋に詰めて持ってきてくれた。そんなダーチャを訪れると、地下室に野菜の不足してくる冬場を越すための何十個ものピクルス瓶が並んでいる。ウクライナでも同様で、戦禍の中でも食料不足ということはない。

「タネの図書館」って何??

シードライブラリー「タネの図書館」はアメリカを中心に25ヶ国・500ヶ所にまで広がっています。日本では長野県の小布施町でも始まっているし、公的施設ではなく、caféに併設されたところもあるようです。

その仕組みは・・・

- ▶ 「タネの図書館」のコーナーに野菜などの種が封筒に入れておいてある
- ▶ タネの貸出を希望する人は利用登録をして、種を少し持って帰る
- ▶ 育て、野菜を美味しく食べ、一部からタネをとって返却

そ～、図書館の本の貸し出しとほぼ同じですが、タネの取り方などのワークショップをやったりしています。

ちなみに貸し出していても、「返さなくてもいいよ～」という気軽なスタンスもあるようです。